

第9回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年12月3日(火) 19時~21時30分
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 33名
- ◇内容 学習指導案の相互検討②

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1) 山川丈二先生（奈良学園小学校）

小学校4年 社会科「奈良県の特色ある地域の人々の暮らし」

吉野の手すき和紙を取り上げる（2年生時、吉野町で手すき体験をしている）

「伝統の技は途切れさせたらあかん。一つの技が消えたら、いくつもの技が消える。」職人の言葉

この言葉から学習課題をつくる 「和紙作りが1300年も続いてきたのはなぜだろう？」

和紙と洋紙の比較 調べ学習（和紙の歴史、製造過程、自然条件など）

職人さんへの聞き取り（苦労や工夫や喜び、課題など） 今は4件しか吉野にはない

「手すき和紙の魅力って何だろう？」 手すき和紙魅力ランキングをつくろう

観光協会の方に課題解決のための取組を話してもらう 「もっと和紙を使おう」

12月に手すき和紙体験 できた和紙に夢や願い、感謝の気持ちを書いて保護者や地域の人に渡す

意見交流から

- ・衰退していく伝統産業をブランド化させたりして、復興している例なども調べてみてはどうだろうか。
- ・「伝統は引き継ぐ」ということが前提になっているが、もっと他の視点があってもいいのではないか。
→ 実状を言えば、手すき和紙は価値が高く、美術工芸品にも使われており、収入は高いようである。
決して思いだけで仕事をされているわけではない。
- ・当事者でない一般の人から見て、「これは残していくべきものなのか」と自分事にはなりにくい。
- ・和紙のもつ魅力を最大限生かせるような、新たな使い道や提案ができるといいのではないか。
- ・「応援する」のは、具体的にどう応援するかを子どもなりに現実的なことを考えられたらいいと思う。

2) 岡田源紀先生（愛媛県新居浜市立中萩中学校）

中学校 生徒会活動「地域を知り、地域に知ってもらうために」

まず地域のボランティア活動に参加する 自分たちのできることやしたいことを見つけていく

地域行事で出るごみの削減 → 学校行事とつなげることで中学校のことを知ってもらえないか

→ 伝統的に続いている空き缶壁画アートとのコラボ

運動会の際に空き缶回収ボックスを設置、祭りのときに公民館に回収ボックスを置く など

空き缶壁画アート制作 3年生が中心となって、1・2年生もいっしょになって

各公民館にお礼状（作品の写真を添えて）

意見交流から

- ・校区だけでなく、もっと広く知ってもらう工夫があってもいいのではないか
- ・生徒会の呼びかけでうまくいったのだが、そんな生徒会の頑張りや動きが校内で共有できていない。
- ・空き缶アートが伝統として続いているのが、このままでいいのかという視点が必要だと思う。

- ・「学校生活に役立つ」「地域のためにもなる」活動に空き缶アートになっていけばいいのだが。
- ・空き缶アートが、生徒たちにとってワクワクしながら取り組めるものにしたい。
地域の人たちに困っていることを、アンケートをとって聞いてみるといいのでは。
それを出発点にして、うまく空き缶アートがつながっていけば。

3) 春園彩奈先生（愛媛県新居浜市立中萩中学校）

中学校1年 総合的な学習の時間「新居浜太鼓祭り和新居浜市のこれから」

毎年10月に開催される新居浜太鼓祭り（約400年の歴史）

祭りがあるのが当たり前と思っているが、そうなのだろうか？ 「なぜ長い間続いているのだろうか？」

学校も休みになる大きな祭りであるが、子どもたちの興味が少し離れてきているように感じる

青年団、かき夫などにインタビュー → 次の世代がいらない、資金不足、かき夫不足などの課題

→ 自分たちにできることはないだろうか 祭りの継承、新居浜市の未来について考える

異学年への発表、小学生への発表

意見交流から

- ・祭りの継承に、なかなか表立って見えないところに気づくところに意味がある。
- ・中学生でも何か祭りの手伝いが実際にできないのだろうか。
→ かき夫は子どもはできないし、祭り自体に直接関わることはできない（女子禁制）
「子ども太鼓」というのが別にある。学校に太鼓が巡ってきて触れる機会もある。
- ・小中学生ならば「応援する」ことにつながれば。子どもから「提案する」ことがあってもいい。
- ・異学年や小学生に伝えるだけのゴールでいいだろうか。行政や運営の方向けの提案がいい。
- ・実際に縁の下の力持ち的なところでいいので、やはり祭りに参画できたという実感がほしい。
それで発信するから説得力が生まれて、本当に伝えたいことも見えてくるのではないか。

4) 下津慶一先生（鹿児島県徳之島町立母間小学校）

小学校5・6年 総合的な学習の時間「母間に伝わる母間魂について学ぼう」

1816年「母間騒動」厳しい藩からの圧迫に意見して投獄された「喜久山」を救出するために、母間村の630人余りが代官所を襲撃した一揆 その後、薩摩藩へ出向き直訴する

「母間魂」仲間を思い正義を貫く 「母間正直」として今も母間に伝わっている

校訓「できないということを言わぬ 最後まで本気でやり通す」 母間魂につながっている

2014年に「母間騒動の碑」が校区振興会によって建てられた

まず、母間騒動について知る活動 なぜ200年経ってから碑ができたのだろうか？

校区振興会の方に聞き取り 10年前から「母間騒動劇」を島口（方言）でやっている

意見交流から

- ・社会のルールでも「おかしい」と感じたことを変えていこうとする原動力を学ぶことができる。
→ 当時の人たちの思いに少しでも近づけさせたい。そんな劇にしたいと考えている。
- ・学んだことをもとに「母間魂」について捉え直したことをいろんな人に伝えられるように。
- ・劇の前に日常のことを批判的に考える場面があると、より「自分事」になるのではないだろうか。
- ・保護者や地域の人にアンケートをとって、「母間魂」について今どうなのかを聞いてみるのもいい。
- ・自分事として探究するために、今の自分を考えて「母間魂」が発揮されているところとそうでないところを具体的に考えることで、劇のセリフも変わってきてより真実味のある劇になるのでは。

【ルーム2】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 駿河徳子先生（奈良学園小学校）

小学校2年 生活科・特別活動「えがおでJAMP！」

なまけたい気持ちに負けずに頑張る心を育むことをねらいとした道徳教材「へこたれ虫」を題材として、最後までやり遂げることを学び、吉野山での宿泊学習「一休さん体験（4つの修業，校外学習）」につなぐ展開。吉野山について学び、サイレントウォーク，ごま焚き体験や座禅などを体験するほか，和紙作りなどの人の営みも学ぶ。ESDの要素として，相互性（いろいろな人の支えがあって，楽しく過ごしていること），や責任性などがあげられるが，それ以外にも，無言で歩くこと等を通して自然を直接感じ取ったり，食材のありがたさや人とのぬくもりなどを感じたりしている様子もあった。こうした経験は，最近の子ども達に乏しいと言われる原体験を積むという意味で，意義深いと思われる。また，自分に自信を持ち自己効力感を向上することは，社会に対して働きかける自分を見受けだすという点でも意義深いとの感想があった。こうした学びを踏まえると，コミュニケーション能力の向上や文化多様性の価値観などの形成にもつながっていく可能性がある。今後は，学年を貫く学びをどう実現していくかというカリキュラムマネジメントをどのように実現していくかという点が課題。

2) 三笠日向先生（大阪市立新森小路小学校）

小学校6年 社会科・道徳・総合的な学習の時間「知行合一～大塩平八郎から学ぶ～」

江戸時代後期の新しい国造りについて学ぶ単元として，社会科の教科書に大塩平八郎が取り上げられている。地域の祖先が大塩平八郎の乱に参加していることに気づかせ，平八郎が座右の銘としていた「知行合一」（本当の知は実践を伴わなければならない）について学ぶことで，持続可能な社会の担い手として行動していくことの大切さを学ぶ単元。地域教材の開発という，教材研究が素晴らしいとの感想があった。知行合一という考え方を学んだことで，社会科ではない他の単元について学んだあとに，この考え方を思い出して，行動化を促すことができるのではないかとの感想があった。また，江戸時代の学習というより明治時代（新たな社会を創っていく時期）の学習として扱うとともに，それほど高い身分ではなかった大塩平八郎が社会の課題を真剣に受け止め，行動したという姿は，持続可能な社会の担い手としてのロールモデルにもなる。人の生き方に学ぶこと，社会課題との向き合い方を学ぶという社会科としてのESDの在り方が見える実践だという感想があった。

3) 中川純一先生（生駒市立俵口小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間

「未来の環境のためにわたしたちができること：四日市ぜんそくに関わった人たちの思いにはせる」

四日市ぜんそくを題材として単元を作成した。被害者の立場にたつだけでなく，社会の様子，工場の立場，被害者，行政など多様な立場を学びながら複雑な社会構造について学ぶ単元とした。観光地にもなっている，四日市の夜景を最初と最後に見せることで，変容を子ども自身に感じさせる単元構想になっており，またマイノリティのつらさに気づいたり，子ども達のアンテナを育てる授業実践になっている。谷川俊太郎さんが作詞したある四日市市内の高校の校歌について，学生から情報提供があった。当初コンビナートの様子を歌う歌詞があったが，公害が広がったことを理由に3番の歌詞を一部変更したことがあった。新たな教材研究の視点として活用できるものと思われる。

【ルーム3】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 三好偉雄太先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校1年 生活科 「おうじ すてき はっけん！」

ボランティアガイドさんや町役場の方に話を聞いたり、実際に訪れたりして、校区の「すてき」を感じられるような活動にする。

達磨寺・・・聖徳太子ゆかり、船戸児童公園・・・蒸気機関車、畠田公園・・・秋みつけ

どんなところがすてき？（校内の研究授業、本時）

アイスブレイク「おうじちょう じゃんけんゲーム」は、上記3箇所の様々な写真を用意し、例えば達磨寺はグーなどと設定して、引いた写真がどこの写真かでグー、チョキ、パーでじゃんけんになるようにしている。

メインの活動は、3箇所の「すてき」を伝え合う活動。

「広げる」の段階では、保護者や地域の方など第三者への発信を想定している。

ESD との関連に関してアドバイスをいただきたい。また、子ども主体ですすめたかったがどのようにすればできたか。

意見交流から

- ・1年生としてでは、達磨寺などは特に、その価値などを感じるのが難しいのではないかと。
→地域との関わりや児童の感性で感じられるような活動にしたい。
（例1）公園を維持している地域、行政 （例2）達磨寺でも歴史的な価値というより季節や自然を感じられるように
- ・子ども主体でしたかった
→1年生であるし、学習の流れを作るのは教師主導でいいと思う
- ・SL が傷んできていて、文化財に登録したという次世代に残していこう（世代間の公正）という流れがある。そういったことであれば1年生でも感じられるかも。
- ・コミュニケーション力を1年生の時点で重視することは、学年が上がっても学びの質を高めるものになるのでいいと思う。
- ・本時の中にあった「おうじちょう じゃんけんゲーム」が良かった
→この活動を児童主体のものとして、友達と話し合ったり、グー・チョキ・パーの割り当てを決めたりしていくのもおもしろいかも。

2) 高山翔伍先生（王寺町立王寺北義務教育学校）

小学校5年 社会科「情報を生かして発展する産業 ～行ってみたい観光のまち 王寺～」

王寺町が観光に力を入れていて、社会科の情報産業を絡めつつ、総合的な学習の時間につなげていく流れ。

情報を生かしながら王寺町がどのように観光業に力を入れているのかを、地域観光課やボランティアガイドさんなどをゲストティーチャーとして使いながらすすめる。

「残していきたい」人の想いを中心に学習をすすめていく。

ESD との関連

相互性、公平性、責任性 コミュニケーション力、つながり、他者と協力

意見交流から

- ・ゲストティーチャーの活用は、教員だけでない視点なども感じられて授業に深みがあるのでいいと思

う。

・達磨寺が持続不可能になってきて、一度拝観中止になったが、クラウドファンディングで再開するようになった経緯がある。

→なぜ続けられなくなった？ 大変だったことは？ などの視点で話が聞けたらいいと思う。

・ガイドさんの生の声を聞くのは言いと思う。その中でガイドさんの困り感などが聞けると、持続可能性を考えることになり、「子どもガイド」をやろうといった発展もあるかも？

3) 神前竜太先生（大阪市立加美北小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間「推しの工場」

まず、校区内の調べたい工場を考える。方法としては、フィールドワークとインターネットでの検索次に自分たちの「推しの工場」へインタビューと工場見学に行く。インタビューを考える際には、検索すればわかることなどはしないように注意。働く人の想いや工場の「推しポイント」を増やせるように。

そうして調べたことをまとめてポスター作成をし、学級内で発表しあう。

たくさんの「推しの工場」がある加美北のこれからについて考え、行動化していくが、この「広げる」の段階の活動がまだフワツとしていてアドバイスが頂きたい。

ESD との関連

連携性、相互性、責任性 システムズ、コミュ 世代間

意見交流から

・工場の課題に対してできることは、児童にはなかなか難しい。まさに「推し活」として、働いている人や工場自体を応援するような活動がいいのではないか。

・保護者や地域の人に知ってもらえるような発信がいいのでは？保護者や地域の方に向けて発信するマップの中に、その工場で作られた部品がどんな製品に使われているか示されているといい。実際に工場で働く方と触れ合うような機会にもできたらどうか。

→地域の自治連合会長も工場経営者であるし、年に1度の地域のイベントで協力してもらえそうである。

・それぞれの工場で出る廃材で、学校で使えるものを一緒に考えて実際に作れたら面白いと思う。

・中小工場の技術力やその製品に対するプライドに触れるいい機会になる活動だと思う。

・インタビュー内容を事前にしっかりとしていたことが、充実したインタビュー活動になったのだろう。

【ルーム4】ファシリテーター：阿部友幸（山形大学附属特別支援学校）

1) 吉岡真志先生（奈良学園小学校） 小学校6年 理科「月と太陽」

児童の実態：上位層、下位層いるが、入試の点数はとれるが本質的な理解まではできていない。

9月10月にお月見しよう！ 月の写真を分類分け

満月見たい。いつがいい？ → 満月の写真を探し出す

月と太陽の位置関係からモデル実験をする（自分たちで実験方法も考える）

月にウサギが見えると言われているが、本当？ → 調べ学習 → 自分のストーリーを作る。

【実践中の変更】

・写真の撮り方にこだわる子が出てきた

→「月の満ち欠けする条件はなに？」と問い掛けするようにした

・様々な意見を自由にノートに書く

・どの立場から月を見ているか？ 視点を統一（自分が地球にいるときの月と太陽の位置関係など）

意見交流から

- ・全部で何時間？ → 13時間。標準時数より多い
- ・そのときの子どもの疑問から問い掛けを工夫し、一つ一つ自分の考えを伝え合っているのがよかった。
- ・SDGsは該当なしではなく、4でよいのでは？謙遜されているが、実際に質の高い教育ができています。
- ・価値観は多様性も入る？ 世代間の公正も入る？
- ・指導案と、実際の展開を変えていたが、最終的な指導案はどちらにする？
→ 最初に考えていた指導案。そちらの学習展開の方が、子供の議論が深まると思う。
- ・ICTをフル活用し、子どもたちが活発に意見交換していることが伝わった。
- ・子どもたちは新しい知識も得ながら考えを深めていた。

2) 赤嶺英幸先生（沖縄県豊見城市立上田小学校） 小学校6年 社会科「国づくりへの歩み」

縄文時代と弥生時代、古墳時代の暮らしの違い → 何があったのか？ 調べてみよう

自由進度学習 ワークシートを準備して自分たちで進める 速い子にはスペシャル問題

「どの時代が住みやすかったか？」「どちらの時代に住みたい？住みたくない？」考えを伝え合う

【ESDとの関連】

公平性 連携性 責任性 批判 多面 コミュニケーション

世代間の公正 人権・文化 SDGs 10 11 16

意見交流から

- ・子供の自由な意見を取り入れていて、子供が学習に意欲的に取り組んでいた。
- ・指導者が想定した理想の子どもの姿はあるか？
→自分の考えを書く根拠をどこまで書けるかを重要視した。
- ・自由に調べさせたいが、なかなか難しい。指導者間でも評価で意見が分かれそう。
- ・SDGsのロゴを使っていたようだが、子どもたちは理解しているか？普段使用しているか？
→ ロゴについては掲示しているにとどまっていたが、まずはSDGsの各目標について、各学級でクイズ形式で事前学習を行った。（SDGs開き）
- ・「住みたくない」理由の課題解決方法が考えられない子供がいたことが課題と話があったが、過去の出来事と現在自分たちが生きている時代を比べる視点をもてば、自分事になるのではないか。今日の自分たちの関わりを考えることが、歴史を学ぶ意味にもなる。
- ・教科書によっては、「縄文時代の人から知恵をもらおう」のようなコーナーがあり、現代人が過去の人から学ぶことについてきっかけになる箇所もある。
- ・今と昔をつなぐ一歩になる学習。今と向き合っただけで行動変容につながるような指導案になるとよい。
- ・子供たちが「住みたい」「住みたくない」と選ぶ理由についてはバラつきがあったか？
→似通ったものが多かったが、SDGsとの関連では、様々な意見が出て面白かった。

3) 鈴木郁香先生（千葉県柏市立高柳小学校）

小学校3年 総合的な学習の時間「ぼくも、わたしも、あったかやなぎ」

対話的な学びを重視 地域の方々の協力体制がよい

この授業実践をきっかけに、学校で総合をしっかりさせる問題提起もしたい

「あったかやなぎ」というキーワードは地区でみんな使っているが、認識は様々。

「あったかやなぎ」に関わる人、かかわる行為、活動などについて考える

知らないことや分からないことに疑問を挙げる。

インタビューやアンケートを実施する。

自分たちにできることはないか考える

第二次では、学校で決まっている福祉体験を行う。

第三次では、自分たちが取り組みたいことを考えてやってみる（感謝状、標語作りなど）

意見交流から

- ・インタビューやアンケートから、「自分たちにできることはないか？」の展開が飛んでいるように感じたが、子供の反応はどうだったか？
 - 教師主導で、「子どもたちにできるようになってほしいことは？」ということも加えていたので、それを参考に考えていた。
 - 大人が望むことをかなえるという視点ではなく、子ども発信で「あの人みたいになりたい！」「あの人のために、～したい」などと考えられたら良い。
- ・中心は自分たちであることが分かるような板書になると、思考も具体化されるか。
- ・インタビューした方にもう一度会えたらどうか？身近な人から自分たちが感じたことを伝えていく。
- ・話し合いのグループ分けの工夫は？
 - 子供のこれまでの学習や生活の様子から、意見を出しやすいグループにしたい。また、学級と学校生活を敢えて分けた。
- ・あったかやなぎという言葉の定義がはっきり決まっていなければ、それを自分で考えて一言で表せるとよい。そしてそれを毎年積み重ね、キャリアパスポートのようなファイルに蓄積するなどすると、自己変容を捉えられて面白いのでは。
- ・人を中心に行っている実践というところがよい。わが学校と地域の人が思っている地域でうらやましい。
- ・異学年交流をするのもよいと思う。